CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版　使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要

建物名称	(仮称)加須市下三俣倉庫新築工事	階数	地上2F
建設地	埼玉県加須市	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年2月　予定	評価の実施日	2026年4月9日
敷地面積	27,265 ㎡	作成者	西武建設株式会社一級建築士事務所
建築面積	7,725 ㎡	確認日	2026年4月9日
延床面積	14,895 ㎡	確認者	西武建設株式会社一級建築士事務所

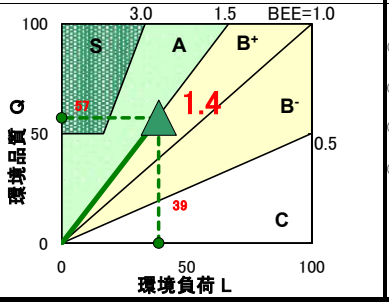
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.4

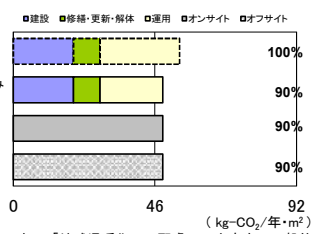
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

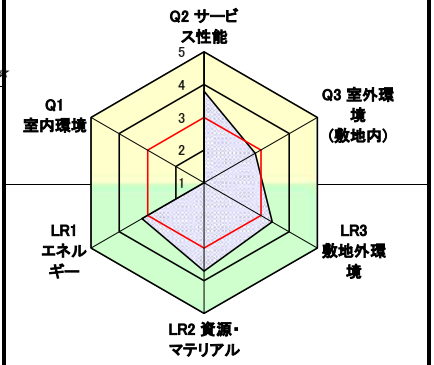
30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

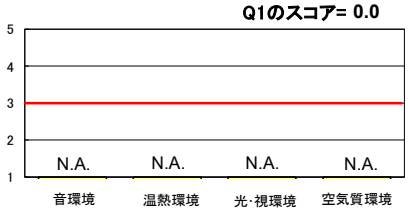
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



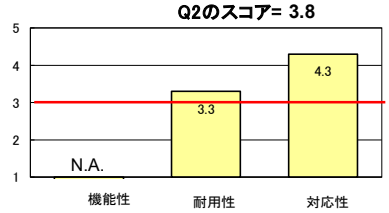
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.2

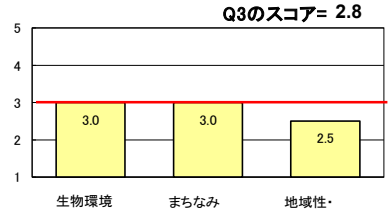
Q1 室内環境　Q1のスコア= 0.0



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.8

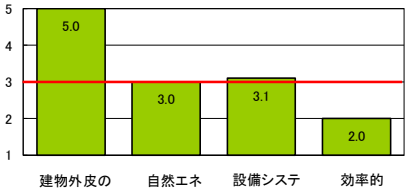


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.8

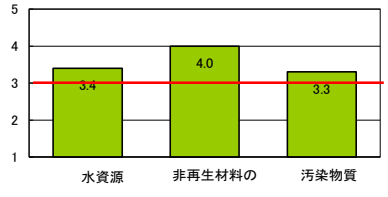


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.4

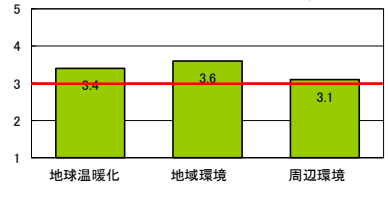
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.2



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.7



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.4



3 設計上の配慮事項

総合	その他
建物耐用性への配慮、節電型・節水型器具の採用により環境負荷低減に配慮した建物としている。	-

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境（敷地内）
-	階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。	-

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。	OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)加須市下三俣倉庫新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
棚に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.2
Q1 室内環境			-		-	-
1 音環境		-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-	
1.2 遮音		-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		-	-	-	-	-
2.1 室温制御		-	-	-	-	
1 室温		-	-	-	-	
2 外皮性能		-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-	-	-	-	
2.3 空調方式		-	-	-	-	
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	
1 昼光率		-	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 昼光制御		-	-	-	-	
3.3 照度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		-	-	-	-	
4 空気質環境		-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		-	-	-	-	
1 化学汚染物質		-	-	-	-	
4.2 換気		-	-	-	-	
1 換気量		-	-	-	-	
2 自然換気性能		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO_2の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		—	0.43	-	-	3.8
1 機能性		-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	
1 広さ感・景観		-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		-	-	-	-	
1.3 維持管理		-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.3	0.50	-	-	3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		4.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁:鋼板パネル塗装品:30年	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	天井:断熱パネル・デッキ現し:40年、壁:鋼板:40年、ALC:50年、床:塗床:20年	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:VLP:B、PEP:B、汚水・雑排水:VP:B、冷媒:銅:C、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	節水型器具の採用、配管系統細分化、受水槽に水栓を設置	4.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	光ケーブル、メタルケーブルなど通信多様化、精密機械の地下空間設置回避、UPSを設置	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性		4.3	0.50	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり		5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	

2	空間の形状・自由さ	[壁長さ比率]<0.1	5.0	0.40	-	-		
3.2 荷重のゆとり		4,500N/㎡以上	5.0	0.30	-	-		
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-		
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-		
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-		
3	電気配線の更新性	ケーブルラックにより、構造部材・仕上げ材を痛めることなく配線の更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-		
4	通信配線の更新性	空配管、配管配線により、構造部材・仕上げ材を痛めることなく配線の更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-		
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			–	0.57	-	-	2.8	
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0	
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.4	
LR1 エネルギー			–	0.40	-	-	3.2	
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPIm] =0.70	5.0	0.20	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm]: 0.79	3.1	0.50	-	-	3.1	
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0	
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-		
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価			-	-	-	-		
4.1	モニタリング		-	-	-	-		
4.2	運用管理体制		-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル			–	0.30	-	-	3.7	
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4	
1.1 節水		節水型便器に加えて、節水コマ、自動水栓等を主要水栓の過半に採用している	4.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0	
2.1 材料使用量の削減		高強度せん断補強筋、フェローデッキ、横座屈補剛工法、ハイペースNEO、Hybridニーディング工法	5.0	0.10	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		ー	3.0	0.20	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		断熱材:床、舗装材:セメント、路盤材:RC-40	5.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		軽量鉄骨下地により、躯体と仕上材が容易に分別可能、「再利用できるユニット部材」として、OAフロアを用いている	5.0	0.20	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-		
1	消火剤		-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=50未満の断熱材を使用	4.0	0.50	-	-		
3	冷媒		3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境			–	0.30	-	-	3.4	
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出量を参照値より抑制している	3.4	0.33	-	-	3.4	
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6	
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減	指導された規模の対策を実施し、必要な蓄雨高を確保している	5.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制	適切な量の駐輪場(バイク置場)・駐車場を確保し利便性にも配慮、荷捌き用車両スペース確保、渋滞緩和の為構内道路を整備	5.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-		
1	騒音		3.0	0.50	-	-		
2	振動		-	-	-	-		
3	悪臭		3.0	0.50	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制		-	-	-	-		
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの項目の一部を満たし、「広告物照明の扱い」の配慮事項の過半を満たしている	4.0	0.70	-	-		
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		

CASBEE埼玉県　重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン　CASBEE埼玉県2016年版

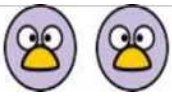
1　建物概要

建物名称	(仮称)加須市下三俣倉庫新築工	BEE	1.4	BEEランク	★★★

2　重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア　緑の保全・創出のスコア

3.4　＋　3.0　＝　6.4



重点項目の各スコアーの合計点

がんばろう	良い	非常によい	すばらしい
6.0未満	6.0以上	6.8以上	8.0以上



3　重点項目についての環境配慮概要

（1）ライフサイクルCO2の削減　スコア平均　3.4

＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞

LR3　敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.4

LCCO2排出量を参照値より抑制している。

（2）緑の保全・創出　スコア平均　3.0

＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞

Q3　室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3　室外環境(敷地内)	3. 2　敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3　敷地外環境	2. 2　温熱環境悪化の改善	スコア	3.0

緑地を設けることにより良好な景観を形成している。

：入力欄